

メイヨークリニック研修に参加した方々からのレター

第 11 回(2002 年度)メイヨークリニック看護研修に参加して —海外研修後の学びの実践と今後の課題—

宮東美奈子

(公立大学法人 大阪市立大学医学部附属病院)

1 はじめに

特定機能病院である当院は、許可病床数 982 床、33 診療科で運営されており、大阪市の基幹病院として最新の設備医療機器を備え先進医療を提供しています。

2001 年に消化器外科病棟で勤務しているときに、当院で初めて生体肝臓移植治療が行われることになりました。その準備として、現状のままでよいのか、さらに効果的な看護ケアがあるのではないかと、もっと広範囲にバックグラウンドを知り看護の質を向上させるための論理的思考を展開、進展させる必要があると痛感していました。私の役割は、移植患者の周術期の看護システムを整え、スタッフ教育を行い看護実践を評価していくことでした。

そこで アメリカのマグネットホスピタルであるメイヨーメディカルセンターで、最先端の移植の周術期看護のシステムを学び、専門職としての自己のキャリア計画、継続教育学習力を向上させ、視野を拡大させるために、2002 年度看護研修に参加させて頂きました。

2 海外研修後の学びの実践

それから数年たった現在は、泌尿器科病棟で移植看護に携わり研修で学んだ移植の周術期におけるチーム医療の促進に取り組んでいます。

当院では、末期慢性腎不全に対して、生活の質と生命維持の面でも優れたおかつ生体恒常性の面でも最も自然な腎代償療法である腎移植を行っています。2011 年は、大阪府下で最多の年間 25 件の移植を行っており、生体腎移植の生着率・生存率は 100% です。

2012 年に院内初のレシピエント移植コーディネーターが誕生し、外来から退院まで移植患者にかかわることができ、継続看護ができるようになりました。チーム医療の促進の面では、CNS が実践していたカンファレンスの運営方法、カンファレンスシートの作成などが大いに役立ち、医師・病棟看護師・外来看護師・薬剤師・栄養士・MSW・専門看護師で構成された移植チームの合同カンファレンスも行っています。日々の援助の中では、薬剤師は服薬指導、栄養士は栄養指導、MSW は医療制度・諸費用などの説明などそれぞれの分野の業務を行い、看護師はレシピエント移植コーディネーターとともに、ドナー、レシピエントの周術期看護に専念することができる体制がで

きチームで患者を支援しています。移植術のように術後の自己管理が余命に大きく影響する場合は、患者教育が重要になってきます。レシピエント移植コーディネーターのように専属に患者教育にかかわる看護師が存在することは有用であり、短期の入院中で看護師が本来の業務である患者の手術への適応、認識、自己管理能力を高めていくことへの援助に専念できます。

移植関連では、骨髄移植は血液内科、生体肝移植治療を外科病棟と個別で行っているので将来的には、メイヨーで実習させて頂いた移植病棟のように独立し、各疾患のコーディネーターが質の高い看護を提供できるように研修で学んだ知識を生かして貢献していきたいと思います。

また、研究としては、第45回日本臨床腎移植学会「適応障害のある献腎移植後患者の看護」、第47回日本移植学会総会「生体腎移植ドナーの身体的・精神的援助に向けたパンフレットの作成 第一報統一した看護提供に向けての外来・病棟スタッフへの意識調査」を報告し、2012年韓国で開催されたThe 12th Congress of the Asian Society of Transplantation (CAST2012)に参加し「An investigation on nurses' awareness of the need for consistent nursing support in living renal transplantation donors (生体腎移植ドナーの統一した看護提供にむけての病棟看護師の意識調査)」を発表し世界に向けて当病棟の看護を発信し、諸外国の移植の動向・看護について学ぶことができました。

海外の学会に参加するにしても、メイヨーでの病院実習があったからこそ、臨床でのシステム的なこと、(諸外国ではコーディネーターは看護師が行っていることは少ないことなど)多職種との連携など、日本との相違がわかるからこそ発表内容が解釈できることもあり理解を深めることができました。

そのほかの研修の学びの実践は、病棟での新人看護師教育方法の見直しと看護職員の働きやすい職場作りです。

臨床場面では、2006(平成18)年度の診療報酬マイナス改訂の中、7対1看護師配置による入院基本料加算取得が始まり、本院も2008(平成20)年4月から200人余の看護職者を採用し、本格的に7対1の看護師配置によりさらなる看護の質の向上を図っていきました。しかし、新採用看護師の離職があり、定着率を高めるために現場での新採用看護師教育の見直しを行う必要がありました。そこでメイヨーの教育方法を一部取り入れました。従来の指導方法は、指導者も受け持ち患者の業務を行いながら新採用看護師の教育を行うOJTでした。しかし、メイヨーで看護教育スペシャリスト Nursing Education Specialist (NES)にあたる教育担当看護師の役割を作り、患者の受け持ち業務を行わずに、技術教育、職場適応に専念させることにより、新採用看護師と指導者の間に時間的余裕ができ、精神的・時間的にも負担なくOJTが実践できるようになりました。

メイヨークリニックでの講義の中で職場の活性化の方法として、「仕事は楽しくす

るものです。そのために、仕事を手伝ってくれたナースに、チケットを渡し、それが5枚集まると師長からキャンディーがもらえます。ハグチケットもあります。みんな大人なのに楽しくやっています」と説明を受けた時には、「そんなお遊び感覚な仕事の仕方は、もともと『遊びの概念』がない日本の風土に合わないし、そんなことしていたら怒られそう。楽しそうだけど実現できないな」「Fish???へんな名前」と思っていました。日本で、モチベーションを上げる研修に参加した経験はありますが、自己啓発や目標達成の内容が多く「遊びの概念」は初めて耳にするものでした。

ところが、当院でも2005年頃からFish活動の導入です！すぐに私は、Fishボードを作成し、自慢のペット写真、奇跡の一枚、新採用者向けのウェルカムメッセージなどを展示してみんな楽しんでいました。新採用看護師だけにとどまらず、看護職員全体の離職率低下のための工夫として、遊び心と思いやりの精神で組織の質の向上を図っています。

研修で、思い出に残っていることは、講義後のミーティングです。自主的にみんなで集まり聞き取れなかった点や理解できなかった内容を教えあい理解を深めました。書記をしてくれる仲間がいて、レポート作成にとっても助かりました。サンディーさんに「教室を使わせてほしい」と申し出ると「今までそんなグループはなかったわ」と驚いていました。週末に演劇鑑賞やモールに買い物に行ったりして気分転換もできて有意義に過ごせました。

3 今後の課題

あれから10年があつという間に立ちました。振り返ってみると、病院機能評価受審、電子カルテ導入など研修で見てきたこと・聞いたことなど、まさに研修してきたことが次々と日本で導入され実践・実現されていくなかで先見の学習が折々に役立ちました。今後の課題として、当院の看護部の理念である、「患者さまの生命と個別性を尊重し、看護実践能力の向上に努め、質の高い看護を提供します。」これをもとに、高度先進医療に対応できる看護者を育成するとともに、質の高い看護サービスの提供をめざし、医師・多職種と連携してチーム医療をさらに推進し看護実践していきたいと思えます。

メイヨー研修の機会を与えて頂いた公益財団法人木村看護教育振興財団の皆様には深く感謝いたします。

【プロフィール】

宮東 美奈子 [みやとう みなこ]

- 1985年 大阪市立大学医学部附属病院附属看護専門学校卒業。
卒業後は内科勤務。
- 1994年 ICU勤務を経て救命救急病棟 副主任に就任。
- 2001年 消化器外科病棟主任に就任し、当院初の生体肝臓移植に携わる。
- 2010年 泌尿器科病棟に勤務。腎臓移植に取り組む。
- 2013年 同病棟師長に就任。現在に至る。